

イスラエルの回復のために祈りましょう



チリのユダヤ人

人口:17,000人

■大きなサイレンの音が周りの歩行者や車の運転手を驚かせ、消防車の通過を知らせる。イスラエルとチリの国旗を誇り高く掲げたトラックが、ボランティアのラビやユダヤ人の消防隊を乗せて道を走り抜けていく。全員がユダヤ人というボランティア消防隊「ボンバ・イスラエル」が本拠を構える、チリのサンティアゴによる。実際、ラテン・アメリカにおける最初の消防署の多くは、ユダヤ人がはじめたものである。チリは1万7千人のユダヤ人の居住地であり、中でも一番大きなユダヤ人共同体がサンティアゴにある。

■コンベルソ、あるいはマラーノと呼ばれるユダヤ人（つまり強制的にキリスト教に改宗させられたユダヤ人）は、16世紀に初めてチリにやって来た。そして、その中の一部の人々は1535年、チリ発見の際、大きな役割を担ったが、これら初期のユダヤ人共同体は、チリの宗教裁判で多大な人命を失う苦難に遭った。この時期、大多数のユダヤ人共同体は全滅したと言われる。再びユダヤ人の移住が法的に認められるようになったのは、1810年のことである。そして1865年、新しい法律によってカトリック教徒以外の宗教信仰は、自宅や学校の中でなら認められるようになった。しかし新しい法律が可決されたにもかかわらず、20世紀になるまで、ユダヤ人が再びチリに戻ることはほとんどなかった。第二次世界大戦中、チリはヒトラーのドイツを支持していたが、多くのユダヤ人は大戦の前後に何とかチリに移り住むことができた。同様にチリはナチの居住地ともなっていた。ユダヤ人コミュニティーが大きく成長すると、反ユダヤ主義も台頭するようになり、ユダヤ人たちは団結して「コミテ・レプレゼンタティヴォ」という代表団体を設立したのである。こうした反ユダヤ主義への恐れは、チリのユダヤ人に、しばしば自分の民族伝統を否定させる要因ともなっている。

■今日、チリのユダヤ人はさまざまな業界で活躍しており、彼らは中産階級と見なされている。チリのユダヤ人のほとんどは、スペイン語をコミュニケーション手段として使っている。ユダヤ教の教えはまだ守っているが、どの宗教にも属さないという人が多い。チリのユダヤ人共同体を団結させているのは、社交・文化系の諸団体である。

■また、こうしたユダヤ人共同体のほかに、ユダヤ人の子孫だと主張しているインディアン集団（イグレスシア・イスラエリータ）もいて、南部の地域に住んでいる。彼らは今日に至るまで、ユダヤ人の律法や伝統習慣を守っている。

■また、マラーノ（つまり15世紀と16世紀に改宗したユダヤ人）のコミュニティーも、チリの南部にある。彼らはイエスの神性を信じ、シャバット（安息日）と例祭も守っている。





祈りの課題

☆チリのユダヤ人にとって、神の愛が、反ユダヤ主義や迫害に対する恐れを鎮める力となるように。

☆物質主義の霊が偽りの安心感をもたらし、「神は要らない」と人々を欺いている。「イエシュアこそ唯一、安らぎを与えるお方」と彼らが悟るように。

☆チリのユダヤ人に深く影響を及ぼしてきた、宗教裁判とホロコーストによる、心の傷が癒やされるように。

☆上流階級と中産階級の中にある、傲慢さや優越感の壁が打ち壊されるように(孤立した思いが心をかたくなにしてしまうため)。

☆ユダヤ人が、真の信徒(ユダヤ人でも異邦人でも)に出会うように。そして和解への働きが起こされるように。

☆ユダヤ人が、チリで強く働いている偶像礼拝の影響力から解放されるように。

☆チリのユダヤ人が、彼らのメシアに対して心を開くように。そして神の召しと、神が一人ひとりのために用意された、人生における計画に応えることができるように。

.....